

アルヨことば その後

れど、回響セドセ、*Yokohama Dialect* の輔師 (Bishop of HOMOCO) が「この地名が用ひられたる」が Hoffman Atkinson によると（英語の翻訳者）、「地圖に點綴する」や「地圖に點綴する」が「地圖に點綴する」や「地圖に點綴する」。

1

拙著『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』(湘波書店、一〇〇二年)では、「やつアルヨ」さつさつ煙るヨロシ」のよつな、外国人(イギリス中国人)が用いると教えられていて、訛った語し方を アルヨ!とせ
についても詳しい分析を加えており、*Yokohama Dialect*の理解などに
て第一に参考すべし語文であるヒヒヤード、ピジン研究の論文としても
貴重である。参考。

と名付け、横浜居留地で行われていた、ビシン化された日本語を起源としているという見方を示した。本稿では、この「アルヨ」とは、なにしピジン日本語に関して、その後に知ったこと、人から教えていたといったことなどを書いておきたい。

2

さて、さういふ點で言つては、一方で、従来は日本語の書籍の題名や著者名に「横濱方言」、「横濱土音」、「横濱語」、「横濱方言」、「横濱土音」、「横濱語」として記載される事が多いが、その多くは、横濱の方言を意味するものである。それらの例は次の如くである。

横浜ダイアレクト

Is He ill? (彼は具合が悪いのですか?)

Am buy worry arimas? (アハバイ 悪イ アコマス?)

(Yokohama Dialect I | 横濱方言)

語ベースの「ピジン」『東京大学国語研究室創設百周年記念集』(同記念会編、一九九八年、汲古書院、八二一〇六頁)である。当然知つていてよい文献で、見落としていたに心血大変恥ずかしいことである。結果としてカイザー氏の重要な「論考」を無視したことになり、申し訳ない」とであった。

3

わい、横浜タイアソクトヨ代表されるよひなレバノ日本語ど、現在中國人の役翻語として認識せれどこぬ ブルマリドウの間にせ、若干の墮たりがあ。¹⁰ *Yokohama Dialect* や *Yokohama dialect* たけでなく Nankinized-Nippon (横浜語つ日本語) といひやのも収録されねど、前都が主に西洋人が使ふるやうだねー一方で、後都は中国人が用ふるやうであるかのように書かれてこぬ。それぞれの例は次のよハドね。

I shuld like to borrow 500 Yen from you if you have

them. (もつね持れぬと、日本語つてただせなこ)

Anatta go-hakku lio aloo nallaba watark-koo lack' shee

high chacko dekkeloo alloo ka

(アナタ パベクコモー ブルナリバ ロタクハシ (=

私) ハイシヤク ブキル アルカ) (回三 || 頃)

一般に、明治時代の資料に見られるの半のラーベン日本語の語ふ半は、概ね西洋人である。それが、このじかの中国人に限定されるものになつたが、ここへは、役割語の形成史と云つて大きな問題となる。まず、西洋人系の資料につれてくつか挙げておく。

拙著では、岡島昭彦氏による教示をこたえんだ、森銑二氏著『明治東京逸聞史』からの例（一八八一 明治十四年「新橋芸妓評判記」）を挙げたが、岡島氏から、やむに次のよしな明治時代の小説の用例も教えていただいた。まず、アフリカ人の例である。

阿弗利加入のダンスなりけつ（中略）曰那私し貴郎叱つま
すない私し話し致します曰那叱るありますか私し泉さん助け
て貰ひました（中略）お嬢さま願ひます私し悪に事するな
お詫私し願ひます曰那どうぞ私し悪いない一口でも半口でも
一通私しお邸帰ぬあります……

（須藤南翠『新粧之佳人』第五回（末尾）一八八七 明治一〇年）

次はアメリカ人の例である。

「私、良君が、日本へ行つたら日本語ばかり使ふんことを
仰やりましたから、それで可成左様つらますか、外の日本人、解のあこか思ひあつてね……」

（中村春樹（相應）『無花果』一九〇一 昭和四年、三六

三| 頃）

「私一人で遣ゆもつまわ」（回、日本人牧師と結婚して日本に

来る米国女性、三六四| 頃）

次に、時代は前後するが、彰義隊生を残りの寺沢正明による『一生一語』に、次のよしな例がある。一八六八（慶應四）年、上陸戦争に敗れ、敗走する榎本艦隊・開陽艦に乗り込んだフローネス士官のハコバー・ネとカズヌーフが、日本人による語つたところのである。

アナタ上野ノ負ケマシタガ弱クアリマセん。ハニカト私ト蝦夷イキマス。蕨ノ根タベマス。開陽タクサン能キ船アリマス。負ケマセン。来年二月帰リマス。其ノ時アナタ上野花見マス。樂シミマスカ、酒ツマスカ、喜ビマスカ。私思ヒマセん。アナタ旅出マスアル

『一生一語』は山崎有信『彰義隊戦史』（隆文館、一九一〇。一九八五年に鳳文館より復刊）に所収のもので、野口武彦氏による教示いただいた。野口氏著『幕末氣分』（講談社、一九〇〇一一）一八二| 頃も参照されたい（用例の表記も『幕末氣分』によつた）。この談話は、後年の記憶によるもので、ステレオタイプ的に改編されてくる可能性はあるが、創作ではなく直接体験者による歴史的記述であり、話者が特定されていゐるところでは、貴重な記録といふべき。

一九三三（昭和七）年および一九三八（昭和十三）年の「のんびり」の例を挙げていい。最後の「のんびり」の例では、のんびりが属する猛犬軍と戦の豚軍が、アル元口せを用いてる。やつてこの豚軍には、中国人が重ね命わせられてるのであれば述べ、しかしその根拠を示すじひができないたが、田村和真氏「…」（…）によつてこの推測が裏付けられた。すなわち、明治時代の漫画において、最初中国は竜を以て象徴されていたのであるが、日清戦争以後、豚によつて表されることが多いなくなったのである。すなわち当時日本人は、豚を見れば直ちに中国人を連想したと考へて間違いない。

最後に、最近気付いた例として、一九三八（昭和十三）年にキングレコードから発売された「チンドイパン」を挙げておく（一番のみ）。手品やるアル 雉来る口口シ
いまくゆしない 可愛がつておくれ
娘なかなか きれいきれいやる口
チンドイチンドイ チンドイチンドイ

【附記】

（「チンドイパン」樋口静雄歌、時雨音羽作詞、田村しげる作曲）注3

チンドイとは「請来」で、「来てください」という意味の北京語である。この歌は中国に出生した日本人の間で大変はやつたそつである。このカルな曲調で、当時の日本人の、中国人に対するイメージの一端がよく分かる。

以上、少しおまかげながら日本語およびアル元口せについて書いてきたが、なお調査を続け、資料の穴を埋めてきたこと備えていく。小説、映画、レコード等なんでも結構ですのド、もつて存知よつの資料がありまつたム、UINNお教えてや（kinsui@jet.osaka-u.ac.jp）。特に第一次対戦以前のものがありがたこです。

注

1 なお、*Yokohama Dialect* の著者立川野真（山川良也）が教示をしてただいた。

2 渡辺裕氏著『宝塚歌劇の変遷と日本近代』（新書館、一九九九）によれば、「邯鄲」は久松一聲作・原田潤作・編曲で一九二一（大正一〇）年に宝塚で初演、翌一九二二年には東京公演されている。また、一九三〇（昭和五）年に再演されてる。

3 ▶ 20世紀につくった歌 想て田の戦前・戦中歌謡大全集解説書（株式会社アロバント）（コーケラ）（一九九八）による。